

II 情報交換推進事業

II 情報交換推進事業

1 実施機関及び担当者

高知県水産試験場			
漁業資源課長	田ノ本	明彦	
チーフ	新谷	淑生	
主任研究員	浦	吉徳	
〃	山本	順	
〃	大河	俊之	
〃	梶	達也	
研究員	山下	慶太郎	

2 対象海域及び漁業種類

高知県地先沿岸及び沖合域におけるイワシ・アジ・サバ・カツオ等を対象とする漁業

3 実施期間

平成20年4月1日～平成21年3月31日

4 情報収集

漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター、漁業無線局（漁船、調査船）、及びその他関係機関から電話、ファックス、郵便、現地調査により情報を収集した。

5 広報の方法

新聞、ファックス、郵便、電話により漁業者、漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター及びその他関係機関に広報した。同時に高知県漁海況ホームページに掲載した。漁海況速報発行状況は表1に示した。

なお、平成20年下半期（8～12月）の漁海況予報、平成21年上半期（1～6月）の漁海況予報は資料1、2のとおり。

また主要魚種、主要漁業種類別漁獲統計、調査地はⅢ主要魚種・主要漁業漁獲統計に示した。

表1 漁海況速報発行状況

発行年月	広報回数	備考	
20年 4月	5	9月 平成20年下半期（8～12月）漁海況予報 （資料1）	
5月	4		
6月	4		
7月	5		
8月	4		
9月	5		
10月	4		
11月	4		
12月	4		
21年 1月	4		1月 平成21年上半期（1～6月）漁海況予報 （資料2）
2月	4		
3月	5		
計	52		

(資料1)

高知県長期漁海況予報(要約版)

平成20年下半年(8~12月)の漁況・海況の予想

平成20年9月発行 高知県水産試験場

このたび、平成20年8月から12月を予測期間とした「平成20年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海 況

【海況の経過 (平成20年4月~7月)】

1. 黒潮

足摺岬沖では4月から5月上旬まで「接岸」、その後、離岸傾向を示し、6月下旬には「著しく離岸」しました。7月に入って、やや接岸したものの、その後は離岸傾向で推移しています。

室戸岬沖では、4月上旬から中旬にかけて「かなり離岸」、4月下旬から5月下旬まで「接岸」、その後、離岸傾向で推移しました。7月に入ると一転して接岸傾向となるも、7月下旬には「やや離岸」となっています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は接岸~著しく離岸で推移しました。

2. 沿岸水温

春期においては「やや低め」で推移しましたが、夏期に入ると「平年並み」で推移しました。月別にみると、4月は表層で「やや低め」、200m深で「かなり低め」であったほかは、「平年並み」でした。5月は、200m深で「かなり低め」であったほかは「平年並み」でした。6月は、50m深及び100m深で「やや高め」、200m深で「かなり高め」となりました。

3. 特異現象

海況

・沿岸定線観測において、4月の200m層が過去6番目の低水温、5月の200m層が過去5番目の低水温であった。また、1月の100m層が過去2番目の高水温、2月の100m層が過去2番目の高水温、3月の50m層が過去4番目の高水温であった(1975年以降、欠測年あり)。

漁況

- ・ 1~2月、土佐湾でシラスが不漁(平年比3.3%)
- ・ 1月及び6月、足摺岬周辺の立縄によるゴマサバが不漁(1月:平年比17.8%、6月:平年比19.9%、両月とも同時期過去最低(1987~))
- ・ 2~3月、土佐湾東部に位置する加領郷の多鉤釣によるゴマサバが好漁(2月:平年比463.2%、3月:平年比367.5%)
- ・ 1月、宿毛湾における中型まき網によるマイワシが好漁(平年比1346.1%)
- ・ 3月、宿毛湾における中型まき網によるマアジが好漁(平年比440.4%)
- ・ 4月、宿毛湾における中型まき網によるウルメイワシが好漁(平年比548.5%、同時期過去最高(1983~))

【今後の見通し(平成20年8~12月)】

1. 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、8～11月にかけて変動が大きく、B型とC型流路を繰り返すが、12月以降、B型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、九州南東沖では離岸傾向で推移する見込みです。8～9月、四国沖では変動が大きく離接岸を繰り返すが、10月～11月には潮岬以西全域で離岸傾向となる見込みです。

これに伴い、日向灘～豊後水道外域～土佐湾では一時的に暖水が波及することがあると予想されます。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

2. 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（6月25日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

I サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は222.3トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します）で、前年（673.0トン）、平年（1,736.3トン 以下、平年とは平成9年から平成18年の10年間の平均値を示します）を下回りました。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバが主体でした。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は82.6トンで、前年（53.7トン）を上回り平年（115.9トン）を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場（椎名、高岡）の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。平成11年以降、県西部の定置網で実施しているさば類0歳魚の入網尾数調査（3～6月）では、ゴマサバは前年の50倍に増加、マサバは1/2に減少しました。
- (3) 釣（立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計）による漁獲量は321.8トンで、前年（236.0トン）を上回り平年（345.1トン）並みでした。魚体測定の結果では、漁獲の大半はゴマサバで前年同様3歳魚（平成17年生まれ）以上のものが大半を占めました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に2,253トンで、前年比25%、平年比39%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に25トンで前年比101%、平年比2%ときわめて低水準に推移しました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による4～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,816.5トンで、前年比263%、平年比227%でした。熊野灘南部定置網の4～6月の総漁獲量は94.3トンで、前年比1,292%、平年比107%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

(1) 漁獲対象：1 歳魚（平成 19 年生まれ）、2 歳魚（平成 18 年生まれ）、3 歳魚（平成 17 年生まれ）

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1、2 歳魚は前年を下回り、3 歳魚以上を含めた全体としても、前年を下回ると考えられます。
- ・マサバ：1 歳魚、2 歳魚とも来遊量は前年を上回るものの、依然、低水準で推移する見込みです。

（参考）前年 8～12 月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網：43.1 トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：10.8 トン

釣（立縄・多釣釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計）：366.6 トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成 20 年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。このうち資源水準の高かった 4 歳魚の残存資源量は、依然、多いと推定されていますが、2、3 歳魚の資源水準は 4 歳魚を大きく下回り、1 歳魚（平成 19 年生まれ）は近年の平均と推定されています。従って、期間中のゴマサバ全体としての本県への来遊量は、前年を下回るものと考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の平成 20 年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されています。本県においても幼魚の来遊量調査等の結果から、2 歳魚、1 歳魚の期間中の本県への来遊量は前年並み、ないし上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

II マアジ

【漁況経過（平成 20 年 4～6 月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 293.8 トンで、前年（319.4 トン）、平年（415.7 トン）を下回りました。銘柄別では、150g 以上の「アジ」が 177.9 トンで、前年（313.6 トン）を下回り平年（106.4 トン）を上回りました。150g 未満の銘柄「ゼンゴ」は 115.9 トンで、前年（5.8 トン）を上回り平年（309.3 トン）を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、0 歳魚を主体に漁獲されていたと思われます。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 136.2 トンで、前年（137.4 トン）並みで平年（260.2 トン）を下回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 794 トンで、前年比 142%、平年比 57%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 1,325 トンで、前年比 115%、平年比 90%でした。

和歌山県：紀伊水道外域 2 そうまき網による 4～6 月の漁獲量は、272.5 トンで、前年比 33%、平年比 39%でした。

【漁況予測（平成 20 年 8～12 月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（平成 20 年生まれ）、1 歳魚（平成 19 年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年を上回る来遊と考えられます。

（参考）前年 8～12 月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：549.2 トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：56.8 トン

説明：

1 歳魚は前年をやや上回る来遊水準と考えられます。一方、本年春期からの0歳魚の来遊水準が好調なため、全体では前年を上回ると考えられます。

III マイワシ

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は40.2トンで、前年（184.3トン）、平年を下回りました。漁獲は4月に集中していました。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は3.2トンで、前年（29.0トン）、平年（58.9トン）を下回りました。漁獲の主体は0、1歳魚でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月における総漁獲量は526トンで、前年比20%、平年比71%でした。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は152トンで、前年比13%、平年比9%でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網による4～6月の総漁獲量は4.2トンで、前年比7%、平年比2%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（平成20年生まれ）、1歳魚（平成19年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：前年を下回ると考えられます。

（参考）前年8～12月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：6,788.1トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：47.1トン

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県海域における漁況経過などから、0歳魚（平成20年生まれ）は一定の来遊水準にあると考えられますが、突発的な好漁となった前年下半期には及ばないものと考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は124.7トンで、前年（90.6トン）を上回り平年（394.9トン）を下回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」が47.9トンで、前年（68.6トン）、平年（120.8トン）を下回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は76.8トンで、前年（22.0トン）を上回り平年（274.0トン）を下回りました。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲は54.7トンで、前年（20.9トン）、平年（49.4トン）を上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は982トンで、前年比21%、平年比18%でした。

愛媛県：豊後水道では中部、南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は785トンで前年比57%、平年比106%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

カタクチイワシの成魚は下半期の主たる漁獲対象ではないと考えられます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,610.5トンで、前年（994.2トン）、平年（499.2トン）を上回りました。体長測定から、1歳魚（平成19年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられる。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は29.2トンで、前年（44.9トン）を下回り平年（27.6トン）並みでした。定置網入網調査から、1歳魚（2007年級群）を主体に漁獲していたと考えられます。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は5.1トンで、前年（14.3トン）、平年（14.8トン）を下回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は2,135トンで、前年同期比80%、平年比118%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は273トンで、前年比23%、平年比59%でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、総漁獲量が277トンで、前年比561%、平年比302%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（平成20年生まれ）主体に1歳魚（平成19年生まれ）が混じる。
- (2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

（参考）前年8～12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：489.2トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：59.0トン

多鈎釣漁（宇佐漁協）：3.1トン

説明：

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。しかし、近隣県も含めた上半期の漁況経過から、今後の主体となる0歳魚（平成20年生まれ）の来遊状況が悪いと考えられることから、高水準にはあるものの前年を下回る来遊と考えられます。

VI シラス

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による漁獲量は158.3トンで、前年（322.8トン）を下回り平年（149.2トン）並みでした。魚種組成は、3月はマイワシ主体、4月以降はカタクチイワシが主体でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：1～6月の総漁獲量は621トンで、前年比47%、平年比45%でした。

大分県：佐伯湾における4～6月の漁獲量は18トンで、前年比26%、平年比20%でした。

徳島県：紀伊水道内における4～6月の漁獲量は232トンで、前年比57%、平年比16%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

本県の下半期シラス漁獲量は、主に11、12月の漁況に大きく左右されるため、現時点では予測することが困難です。

(資料2)

高知県長期漁海況予報(要約版)

平成21年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成21年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成21年1月から6月を予測期間とした「平成20年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海 況

【海況の経過 (平成20年8月～12月)】

1. 黒潮

足摺沖では10月上旬に「やや離岸」したものの、概ね「接岸」傾向で推移しています。室戸岬沖では9月上旬及び11月上旬において「接岸」であった他は、概ね「離岸」傾向で推移しています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

2. 沿岸水温

概ね「平年並み」で推移しましたが、10月の100m層で過去2番目の低水温が記録(1975年以降)されるなど、9月及び10月の100m以深において「かなり低め」の水温が観測されました。

3. 特異現象

海況

- ・沿岸定線観測において、10月の100m層が過去2番目の低水温となりました(1975年以降、欠測年あり)。

漁況

- ・土佐湾内でのシラス漁が不漁(平年比41.6%)
- ・宿毛湾における中型まき網でカタクチイワシが不漁(平年比25.9%)
- ・足摺岬沖におけるゴマサバ立縄漁が不漁(平年比39.0%)
- ・宇佐のウルメ多鉤釣が不漁(平年比12.3%)
- ・宿毛湾における中型まき網でマイワシが豊漁(平年比468.4%)
- ・宿毛湾における中型まき網でウルメイワシが豊漁(平年比308.2%)

【今後の見通し(平成21年1～6月)】

2. 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通して規模の大きなC型流路で推移し、4～5月に一時的にB型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖～足摺岬沖では2月～3月と6月に一時的に離岸傾向となるほかは接岸傾向で推移する見込みです。また、室戸岬沖～潮岬沖では期間を通して離岸傾向で推移する見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

2. 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(11月25日発表、予報期間12～2月)によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

I サバ類 (ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過 (平成20年8～11月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は871.4トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年(40.6トン)を大きく上回り、平年(880.4トン以下、平年とは平成9年から平成18年の10年間の平均値を示します)並みでした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバで、27～28センチ台の1歳魚(平成19年生まれ)が主体でした。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は29.6トンで、前年(7.8トン)を上回り平年(63.8トン)を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。
- (3) 釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は217.4トンで、前年(320.2トン)、平年(495.7トン)を下回りました。魚体測定の結果では、漁獲の大半はゴマサバで前年同様3歳魚(平成17年生まれ)以上のものが大半を占めました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に6,874トンで、前年比1,371%、平年比285%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,996トンで前年比527%、平年比147%でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による8～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に2,043.5トンで、前年比96%、平年比77%でした。

【漁況予測 (平成21年1～6月)】

(3) 漁獲対象：1歳魚(平成20年生まれ)、2歳魚(平成19年生まれ)、3歳魚(平成18年生まれ)

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1歳魚は前年を下回り、2歳魚は前年を上回ります。3歳魚以上を含めた全体としては、前年を上回ると考えられます。
- ・マサバ：1歳魚、2歳魚とも来遊量は前年を上回るものの、依然、低水準で推移する見込みです。

(参考) 前年(平成20年)1～6月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網：824.7トン

定置網(窪津・椎名合計)：137.1トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)：585.2トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されて

います。このうち資源水準の高かった5歳魚の残存資源量は減少しています。3, 4歳魚の資源水準は5歳魚を大きく下回り、2歳魚(平成19年生まれ)は近年の平均を上回り、1歳魚(平成20年生まれ)は近年の平均を下回る低い水準であると推定されています。従って、期間中のゴマサバ全体としての本県への来遊量は、前年を上回るものと考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「低位」、動向は「増加傾向」と評価されています。本県においても幼魚の来遊量調査等の結果から、2歳魚、1歳魚の期間中の本県への来遊量は前年並み、ないし上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

II マアジ

【漁況経過(平成20年8~11月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は503.0トンで、前年(549.2トン)を下回り、平年(508.7トン)並みでした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が52.4トンで、前年(97.4トン)、平年(140.0トン)を下回りました。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は450.7トンで、前年(451.7トン)並みで平年(368.7トン)を上回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、0歳魚を主体に漁獲されていたと思われま
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は111.8トンで、前年(53.3トン)、平年(93.4トン)を上回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、0歳魚を主体に漁獲されていたと思われま

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8~11月の総漁獲量は794トンで、前年比24%、平年比8%ときわめて不漁でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8~11月の総漁獲量は1,586トンで、前年比66%、平年比88%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による8~11月の漁獲量は、416.8トンで、前年比37%、平年比42%でした。

【漁況予測(平成21年1~6月)】

- (1) 漁獲対象：0歳魚(平成21年生まれ)、1歳魚(平成20年生まれ)主体。
- (2) 来遊水準：宿毛湾では前年並み、土佐湾以東では前年を下回ると考えられます。

(参考) 前年(平成20年)1~6月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：491.3トン

定置網(窪津・椎名合計)：144.2トン

説明：

宿毛湾では1歳魚(平成20年生まれ)の漁獲量が前年並みであったことから、来遊量は前年並みと考えられます。一方、土佐湾では1歳魚の来遊量が少なかったことから、来遊量は前年を下回ると考えられます。

III マイワシ

【漁況経過(平成20年8~11月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,145.6トンで、きわめて好漁であった前年(4,064.9トン)を下回ったものの、平年(219.7トン)を大きく上回りました。漁獲は10, 11月に集中していました。漁獲物の体長測定結果によると、10月には体長13cm台と16cm台のいずれも0歳

魚（平成20年生まれ）を主体に19cm台の1歳魚（平成19年生まれ）も漁獲されていました。11月は体長16～17cm台の0歳魚（平成20年生まれ）が主体でした。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は10.5トンで、前年（45.9トン）、平年（41.5トン）を下回りました。漁獲は10月に集中し、主体は体長11～14cm台の0歳魚（平成20年生まれ）でした。また、7月上旬には県西部の定置網に体長19cm台の1歳魚（平成19年生まれ）のまとまった入網がありました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月における総漁獲量は0トンでした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中・南部に若干の漁がみられ、8～11月における総漁獲量は1.3トンでした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による8～11月の総漁獲量は15.4トンで、前年比5.1%、平年比9.3%でした。

【漁況予測（平成21年1～6月）】

(1) 漁獲対象：1歳魚（平成20年生まれ）主体に2歳魚（平成19年生まれ）が混じると考えられます。期の後半には0歳魚（平成21年生まれ）も漁獲されます。

(2) 来遊水準：前年並みから前年を下回ると考えられます。

（参考）前年（平成20年）1～6月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,236.7トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：19.4トン

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しており、本県を除く近隣海域ではきわめて低調な漁況となっています。本県では、今後の漁獲の主体となる1歳魚（平成20年生まれ）は平年を上回る漁況で推移しているものの、その水準は好漁となった前年には及ばないと考えられます。昨年の好漁を支えた2歳魚（平成19年生まれ）もある程度の残存は見込めるものの、前年を上回るまでは至らないと考えられます。期の後半には0歳魚（平成21年生まれ）も来遊しますが、その水準は現時点では分かりません。これらのことから、全体として前年並みから下回る来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成20年8～11月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は4.5トンで、前年（750.9トン）、平年（67.5トン）を大きく下回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」が4.5トンで、前年（2.3トン）を上回り平年（18.9トン）を下回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は0トンで、前年（748.6トン）、平年（48.5トン）を下回りました。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は10.1トンで、前年（2.3トン）、平年（1.2トン）を上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は56トンで、前年比8%、平年比7%でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は331.4トンで前年比19%、平年比23%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成21年1～6月）】

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は高位、動向は減少傾向にあると考えられます。高知県

海域では下半期に主たる漁獲対象にならないため、県下の漁況経過から動向を判断することが出来ません。しかし、近隣の各県の漁況経過が低調に推移していることや、本県も含めた近隣海域におけるカタクチイワシシラスの漁況も低調に推移していることから、本県海域でも低水準の来遊となることが考えられます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成20年8～11月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は762.1トンで、前年（330.7トン）、平年（416.4トン）を上回りました。体長測定から、0歳魚（平成20年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は39.6トンで、前年（44.4トン）、平年（54.4トン）を下回りました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は2.1トンで、前年（2.7トン）、平年（17.7トン）を下回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は2,711トンで、前年同期比46%、平年比77%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による8～11月の総漁獲量は512.4トンで、前年比34%、平年比90%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、8～11月の総漁獲量が5.5トンで、前年比3%、平年比4.6%でした。

【漁況予測（平成21年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：1歳魚（平成20年生まれ）主体に、期の後半には0歳魚（平成21年生まれ）も漁獲されます。
- (4) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

（参考）前年（平成20年）1～6月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,886.7トン

定置網（窪津・椎名合計）：34.5トン

多鈎釣漁（宇佐漁協）：54.5トン

説明：

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。しかし、近隣県も含めた上半期の漁況経過から、今後の主体となる1歳魚（平成20年生まれ）の来遊状況が悪いと考えられることから、高水準にはあるものの前年並みから前年を下回る来遊と考えられます。

VI シラス

【漁況経過（平成20年8～11月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による漁獲量は41.8トンで、前年（15.0トン）を上回り平年（136.1トン）を下回りました。魚種組成はカタクチイワシが主体でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：8～11月の総漁獲量は1,328トンで、前年比96%、平年比119%でした。

大分県：佐伯湾における 8～11 月の漁獲量は 61 トンで、前年比 297%、平年比 49%でした。

徳島県：紀伊水道内における 8～11 月の漁獲量は 645 トンで、前年比 124%、平年比 80%でした。